

新学校点描

あんなに暑かった夏も過ぎて、生徒達が長袖のジャージを着ている姿がちらほら見られるようになりました。

《K中学校》

NO.9 R3. 9. 08

担当：校長

8月31日（火）に生徒会役員選挙が行われました。多目的ホールに1年生のみ集めて、2, 3年生は新型コロナウイルス感染防止のために、各教室でオンラインで視聴してもらいました。中学校のはじめての選挙、立会演説会を1年生の生徒は真剣に聞いてくれます。投票の結果、新生徒会長にはS・Hさん、副会長にU・RさんとK・Eさん、生徒会議長にはO・SさんとM・Rさん、応援団長には、W・Sさん、副応援団長にS・TさんとI・Rさん、JRC団長にS・Yさんが決まりました。

9月1日（水）の昼に警察安全課の職員の方が来校し、本校の視聴覚室で県少年の主張大会最上地区大会に弁士として出場する3年I・Hさんの主張を録画して行きました。演題は『私は、わたしを知らない』です。本当は、1日の日に金山中学校体育館で全校生徒を集めて、最上地区の各中学校代表の中学生の主張を聞く予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大を受けて、実現できませんでした。

2日（木）は地区の英語弁論大会の暗唱の部に3年のA・Mさんが『Stone Soup』の題材で出場しました。弁論の部には、少年の主張大会の主張文を英訳にした『Discovering Myself Opens the Word』でI・Hさんが発表しました。市民プラザに向けて出発の日の朝、2人が職員室に来て挨拶をします。その場にいた先生方の拍手を受けて会場へと向かいました。

結果、地区英語弁論大会弁論の部で地区2位にあたる優秀賞にI・Hさんが選ばれました。

ダイバーシティ (Diversity)

先日、教え子で某生命保険会社で働いている女性が1年に1回の契約更新の確認に来了ました。新型コロナウイルス感染拡大で、人と会いにくい時代になったことを教えてください。契約更新のために毎年1回は必ず会う教え子です。もう10年以上のつきあいとなりました。この女性は、ひとり娘と自分との二人暮らしです。いつだったか、実家のお母さんが初めてスマホを買った話をしてくれたことを覚えています。機械音痴のお母さんがスマホを買ったものの、すぐに使い方がわからなくなり、何でも電話で聞いてくるので、「忙しいからショップに行って聞いて！」とつい怒鳴ってしまった、そんな話をしてくれました。まだまだ、スマホは老人の立場からは、やさしくない機械のようです。



今回は、娘が、高校3年の受験生になったことを話してくれました。親は県内の大学に進学してもらいたいという思いを持っていますが、娘さんは、もっとランクの上の関東の大学に入ることを希望しているという悩み相談でした。今、住んでいる団地は騒音があつて、近々引っ越すことも教えてくれました。娘の願いを尊重したい親心と、自分一人になることの寂しさとの揺れる心情が、わずかな時間でしたがわかりました。

8月31日に生徒会選挙が行われました。いよいよこれまで引っ張ってきてくれた3年生の生徒会から2年生が受け継ぐ時期となりました。定数1のところにも2人が立候補している役職も多く、2年生のチャレンジ精神の高さを感じます。立会演説会では、立候補者自身が自分の言葉で立候補した理由と公約を述べてくれます。その演説の内容の濃さに驚くことばかりです。立候補者それぞれが、それぞれの視点で生徒会をどうしたいかを語ってくれました。どの学校の立会演説会の内容にも負けないと自慢できるくらいの素晴らしい演説ばかりでした。同じ学校で暮らしていても、公約の視点はさまざま違うのです。

“ダイバーシティ”は、最近よく耳にすることばです。日本語に翻訳すると「多様性」。たくさんのありさま、という意味です。文科省が送ってくる資料の中にも、最近よく登場するのがこの言葉です。

生きづらさの視点は人それぞれです。同じ音を聞いても、騒音と感じる人もいれば、このくらいは平気だという人もいるでしょう。受験生を抱えている親にとっては、騒音はどうしても解決しておきたい問題です。“それぞれの立場や視点からのダイバーシティ”なのです。ある出来事に対して、どう感じ取るかは、その人の今の立場や経験して得た視点から様々だということでしょう。外国人としての立場、ジェンダー（性別）という立場、障がい者という立場、性的マイノリティの立場、・・・今の自分の立場からの視点は決して他の人と一致するとは限りません。互いにその違いを認め合う社会こそが“ダイバーシティー社会”なのです。同じ家で暮らして育っても、娘の視点と、母親の視点とでは、幸せを形づくる視点は違うものです。

「実家に帰るのもいいんじゃない？」とわたしが言うと、寂しそうに母が亡くなったことを教えてくれました。さらにエピソードが付け加わります。

「母の遺品を整理したら、あのスマホが出てきたんです。電源入れたら待ち受け画面は孫娘ではなく、わたしが生まれたときの写真でした。」

待ち受け画面を見て、娘の希望を大切にしようと考えなおしたそうです。

きりとりせ

ご意見・ご感想をお願いします。

メールでご意見をいただいても構いません。 Shinyatk1616n@yahoo.co.jp